

2019年室内環境学会学術大会 優秀ポスター賞 受賞の言葉

YP-20 ハウスダスト中の多環芳香族炭化水素類及び
そのハロゲン誘導体の網羅的実態調査

清健人¹⁾, 久米一成²⁾, 王齊¹⁾, 甲斐葉子¹⁾, 徳村雅弘¹⁾, 三宅祐一¹⁾, 雨谷敬史¹⁾

¹⁾静岡県立大学, ²⁾東京都市大学

このたび、室内環境学会2019年沖縄大会で発表致しました“ハウスダスト中の多環芳香族炭化水素類及びそのハロゲン誘導体の網羅的実態調査”にて優秀ポスター賞を賜りましたこと、誠に光栄に存じます。

多くの既往研究では、多環芳香族炭化水素類 (PAHs) として、US-EPAが指定している優先取組物質16種 (16 EPA PAH) を対象としており、近年、新規発がんPAH候補として報告されたbenzo[c]fluoreneやdibenzopyrenesが含まれておりません。また、ハウスダストはPAHsの主要な曝露媒体として知られているにもかかわらず、新規POPs候補といわれているハロゲン化PAHs (XPAHs) のハウスダスト中濃度に関しては報告例がありませんでした。

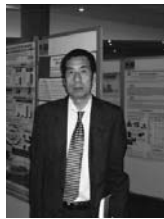
このような背景のもと、本研究では新規発がんPAH候補を含む、網羅的なPAH調査 (29物質) に加え、ハウスダスト中では初となるXPAH調査 (40物質) を行いました。東京都内の一般住宅を対象に、夏季に19軒、冬季に13軒からハウスダストのサンプリングを行った結果、生涯過剰発がんリスクの中央値は 4.8×10^{-5} と推定され、16 EPA PAHのみを考慮したリスク (1.7×10^{-6}) と比較し、2.8倍高くなりました。本研究結果にて、XPAHsが室内に存在することが確認されたため、今後はXPAHsの室内発生源についても検討していきたいと考えております。

最後になりましたが、本研究の遂行に多くの助言を頂きました方々に衷心より感謝申し上げます。

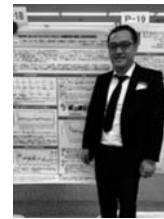
……著者データとプロフィール……



清健人
(せい・けんと)
静岡県立大学
大学院薬食生命科学総合学府
環境科学専攻 博士前期課程1年



久米一成
(くめ・かずなり)
東京都市大学
環境学部 環境創生学科
客員教授
博士(環境科学)



王齊
(わん・ちー)
静岡県立大学
食品栄養科学部 環境生命科学学科
特任助教
博士(環境科学)



甲斐葉子
(かい・ようこ)
静岡県立大学
食品栄養科学部 環境生命科学学科
研究補助員



徳村雅弘
(とくむら・まさひろ)
静岡県立大学
食品栄養科学部 環境生命科学学科
助教
博士(工学)



三宅祐一
(みやけ・ゆういち)
静岡県立大学
食品栄養科学部 環境生命科学学科
助教
博士(工学)



雨谷敬史
(あまがい・たかし)
静岡県立大学
食品栄養科学部 環境生命科学学科
教授
博士(理学)